

喘息症状のある患者 2 名についての報告をした。両者とも、継続して診察している患者で、NIRO による起立試験で脳内血流低下が見られたが、血管収縮作用のある薬（セロトニン、スマトリプタン）の投与で症状が改善したことを確認した。この 2 名の例と同様、転居や進学を境に症状が改善する例が多いということも報告された。ピレスロイド系殺虫剤は、臭いがないため安全だと思われがちだが有機リンと同様の毒性があり、今度居住環境内のピレスロイド系物質の測定が行えないかという要望があった。これに加えて、TVOC のように有機リンを総合評価できる指標が欲しいとの要望もあった。

(6) 新版式発達検査の経過について（資料 2-5）発表者：上山

5 歳 6 ヶ月の女兒と 1 歳 8 ヶ月の女兒を対称に、新版 K 式発達検査を実施し、発達指数を求め、結果の特徴などを報告した。モノクロの図形は認識し易く、角のある形の積み木や、カラフルなものを認識しにくい傾向にあるという報告があった。知能検査 WISK-III の結果でも、言語性 IQ に関する項目への応答性は良い一方、動作性 IQ での学習障害レベルが落ち込む傾向があることも報告された。

(7) 木造校舎の教育環境（資料 2-6）発表者：星

木造校舎の学校と RC 構造の学校では、児童が保健室を利用する割合や、インフルエンザによる学級閉鎖の割合が、RC の方が顕著に高いことなどが報告された資料を紹介した。シックスクールの観点からすれば木造のほうが不利である可能性もあるが、この調査は岡山日本住宅・木材技術センターによるもので、シックハウスとは何の関係もない調査であり、木造校舎を推奨しようとした調査であろうと推測される。RC は都会に多く、木造は田舎に多いことから、学校の周囲環境など調査対象や条件を明らかにする必要があるという指摘があったが、「第 1 回対象校は人口密度 600 人/km²、第 2 回調査は人口密度 700 人/km² と、両方とも同様の人口密度地域を対象とした」とされていることから、環境の違いによる影響は少ないと思われる。

◎次回開催日：未定

平成 16 年度厚生労働科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）

微量化学物質によるシックハウス症候群の病態解明、
診断、治療対策に関する研究 総括・分担研究報告書

平成 17 年 3 月 発行

編 者 石川 哲
発 行 所 社団法人北里研究所病院臨床環境医学センター
〒 108-8642 東京都港区白金 5-9-1
E-mail : satos-de@dp.catv.ne.jp
印刷・製本 明石印刷株式会社
〒 161-0033 東京都新宿区下落合 1-9-5
E-mail : mail@akashi-p.com
